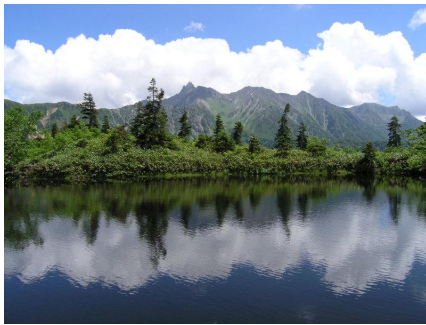


鷲羽岳・笠ヶ岳山行記録



鏡平の池より槍ヶ岳



双六岳より鷲羽岳と水晶岳



笠ヶ岳

目的地	鷲羽岳・笠ヶ岳	期 日	平成21年8月4～6日(火～木) 前夜現地入り：三日とも晴れ時々曇り
山人	笠原正雄単独	特 記	黒部川の源頭の山から飛騨の名峰へ

地 点 名	(着)～(発)	記 事
前日(3日)		
与 板	午後2:30発	一度2時に出たのだが、靴とストックを乗せ忘れ、戻って再出発。
深山荘付近P	8:50着	R117経由、中野ICから松本まで高速。沢渡温泉で入浴。
就 寝	10:15発	洞門途中から深山荘方向に下り登山者用駐車場に入る。弁当夕食、車中泊。
第1日目(4日)		
駐車地点発	午前5:50	車外でキャベツと豚肉を炒めて朝食。男3人隊が歩き出す。
登山指導センター	6:05～6:15	届けを出し、自販機で缶コーヒー。バスが到着して登山者等が10数人降りてきた。蒲田川の右岸の車道を歩き出す。途中、笠新道の登山口が左にある。
ワサビ平小屋	7:25～8:00	直前の広場から山に向かってヘリが生ビールらしき物を空輸している。おにぎり一つ食べる。歩き出そうとしたがストックの調子が悪い。直すのに時間を費やした。そこで何人かに追い越された。また、下山して来る者も居た。
下山者多数	8:25	河原の中を進んだのち山道となる。続々と降りてくる。日焼クリームを塗る。
秩 父 沢	9:00	小池新道に入り鉄板で沢の左岸に渡る。
枯れ沢で休む	9:15	槍ヶ岳・穂高岳が見える。振り返れば焼岳も見える。
イタドリヶ原	9:50	大きな石に白ペンキで書いてある。
お握りを食べる	10:00～10:10	左からの小沢の水を飲む。歩きだしてすぐにもう一度ストックを直す。
ストックを直す	10:55	手間取ったが、うまく行かない。1本で歩くことにする。
熊のおどり場	11:20	登路鉄板にやはり白ペンキで書かれている。
鏡 平 の 池	11:40	雲の動きを待ちながら槍ヶ岳を撮影。1～2分木道で山荘前に入る。
鏡 平 山 荘	11:50～12:10	広いテラスにテーブルベンチ。70歳の記念の登山と言う東京男と会話する。
弓折岳分岐	午後1:15～1:20	この手前で新潟楽山会の一行と行き交う。2つベンチがあり、羊かんを食べる。ここに来てガスに覆われて展望が無くなる。右へ上る。花が豊富に咲く。
黒ゆりベンチ	1:55～2:00	一度下って鞍部にベンチ2つ。下山の男女3人隊がやって来た。
双六小屋前	2:30～2:45	ここまでの登りで腿の疲労を感じる。先着の東京男が缶ビールを飲んでいる。テーブルベンチに同席する。彼は今夜ここに泊まり、明日読売新道を目指すとのこと。また、小屋は比較的空いていると聞く。気付けにウイスキーを少々。到着時には一瞬双六岳方向が見えたが、再びガスが展望をなくする。
巻き道分岐	3:10	双六岳は明日にしてカール経由と書かれた巻き道を進む。10数名の女性の方が多い学生隊とスライド。中学生ですかと言ったら笑われた。大学生だった。
三つの沢を渡る	3:40	雪溪の融水が所々で流れ落ちているが、主だった流れは3つある。もう人影も無くなった。赤いザックカバーの男1人が道脇で休んでいた。
三 俣 峠	4:30～4:40	三俣蓮華岳の道と合わせて最後の休み。腰を降ろす。この後稜線を下る。
三 俣 山 荘	5:00	ガレ場下りから幕営地に入る。結構賑わっていた。そこを横切り山荘到着。やはりビールを飲みたい。500缶800円也。あとは持参の焼酎。
"	5:20～	山荘前広場のテーブルベンチでナスを焼く。昨日太郎兵衛平テント泊と言う単独若者(38才)と同席し一緒に夕食とする。α飯とレトルト麻婆丼+完熟トマト。日暮れとなり鷲場岳が姿を見せた。
ストックを直す		1本ストックではどうも疲れる。やむを得ず、割り箸を2本束ねにして筒の中に突っ込んで応急処置とする。
就 寝	7:30	団体者は一部屋を大勢で使うが、10人部屋を3人の単独者で楽々使う。

第2日目 (5日)		
起 床	午前 3:40	38 才男に声を掛けたが、熟睡中。もう一人も寝ている。
山 荘 発	4:00	防寒に雨具上下を着て空荷で山頂へ。暗い中登高者の頭電が幾つか登っている。
鷲 羽 岳 山 頂	4:55	昨日の腿の疲労もやわらいだ。出だしが遅く気がせいたが、間に合った。
日 の 出	5:00	早速赤い空にカメラを向ける。10 数名の大学生隊ともう一人男。他にも居たと思うが、予想していたより少ないと思った。だんだん明るくなって水晶岳越しに剣岳が覗いている。立山から一周して穂高槍・表銀座と多分後立山。双六岳の向こうに笠ヶ岳の三角錐も見える。
下 山 へ	5:15	すっかり明るくなってガレ斜面を水晶岳方向へ縦走者が続々と上って来る。その中に 38 才男も居た。また昨日秩父沢附近で先行された単独若者も来た。
山 荘 で 朝 食	6:00~	山荘に戻れば殆どの者は居なくなっていた。従業員の朝食の音が掛かる。室内の自炊スペースでラーメンをキャベツと一緒に煮る。初めは今晚にと思っていたもう一個の完熟トマトを荷重軽減のために食べた。
山 荘 発	7:20	快晴である。幕営者数名が山荘前にやって来た。幾分背中が軽くなった。
三 俣 峠	8:00	テント場過ぎで一人とスライド。ここでは三俣蓮華から降りてくる者と会う。
三 俣 蓮 華 岳	8:15~8:25	黒部五郎岳からの者が沢山居た。その中に小出高山岳部生とその引率者も居た。周囲を良く見渡せるのだが、少し雲とガスが山を隠す。
中 道 分 岐	9:05	巻き道や中道を行く隊が見える。このあたり花が多い。途中、昨日登路で前後した男とスライド。幾つかピークを乗越える。
双 六 岳	9:25~9:35	同年代男女 10 数名隊が集合写真撮影中。ガスがどンドン上がって来る。穂高方面は覆われている。鷲羽岳は雲が流れながらも見えている。
中 道 と 合 流	10:00	双六からの道は広いガラ場。所々石積みがある。2 分後巻き道と合流。
双 六 小 屋 前	10:15~11:00	広場ベンチに数名。800 円でジョッキ生ビール。堪らぬ美味さ。笹寿司、昆布茶、コーヒー。野外の蛇口の水を水筒に補充する。槍への道が左に上がっている。小屋従業員が焼却炉でゴミを燃やしている。
弓 折 岳 分 岐	12:05~12:10	新穂高温泉へ下る男 3 人。ベンチで休む。ガスが日差しを遮り夕方気分。
大ノマ乗越鞍部	12:30~12:35	ここまでの道は越後の山を思わせるような雑木の中の下りだった。
大ノマ岳：雷鳥	午後 1:20	雷鳥を追って進めばピークに出た。登路は数m下を通っている。これまでガスの中の歩きだったが、黒部側が見えて来た。チングルマロードを進む。
秩 父 平	1:55~2:35	弓折分岐からここまで一人とスライドした。群馬からの男が一人休んでいた。大きな石にペンキで書かれている。一隅の雪渓の水を汲みウイスキー水割りとチーズフォンデで小昼。秩父岩はガスで見え隠れ。ほろ酔い気分で登り始める。
稜 線 に 上 る	3:10	所々稜線を右に外れて道が先に延びている。先に笠ヶ岳があるのだが、ガスで見えない。しかし、抜戸山へとその先への歩きは気分が良さそうだ。
笠 新 道 分 岐	3:30	抜戸山は右トラバース。この分岐の少し手前に抜戸山頂への道標がある。
群馬男に追付く	4:00~4:10	秩父平を先発した男が休んでいた。一緒に腰を降ろす。ガスの切れ目で先に山荘と笠ヶ岳山頂が見えた。抜戸岩を過ぎて暫くすれば山荘が見えてくる。
水 場 へ 行 く	4:10~4:45	キャンプ指定地から 1 分下った所の雪渓下端部にパイプと木枠で水場があり、勢い良く水が出ていた。水筒満タンにしてからゆっくりと山荘に登る。
笠 ヶ 岳 山 荘	5:00	登頂を済ませた者が数人下って来ている。山荘前の大きな台座に腰掛け、暫く休んでから受付をする。山荘の水は雨水利用だ。
夕 食	6:00~	やはり 500 缶ビールを買う。玄関土間に薪ストーブが置いてあり、その周りが自炊スペース。キャベツとカグラナンパンの焼鮭そぼろ炒め他。途中で大団体の自炊グループが到着し、廊下で調理を始めた。場所を譲り、別テーブルの男女 2 人の隣に移動する。もう 1 本 500 缶を買って、彼らと暫く会話する。
就 寝	8:45	2 F で寝る。やはり満室では無く。楽々眠ることが出来た。
第3日目 (6日)		
起 床	午前 4:30	外はガス、今日は日の出が期待出来ない。それでも外のベンチに東を向いて腰掛ける。自炊グループ中の若い女性が一人タバコを吸っていた。会話する。そのうち群馬男も加わる。明るくなったが、太陽は姿を現さない。展望も無い。
朝 食		湯を沸かし、αドライカレー、ポタージュスープ、コーヒー。
山 頂 向 か う	6:05	カメラのみを持参。板状摂理の登りの途中でコースを見失って直登する。
笠 ヶ 岳 山 頂	6:15~6:20	立派な祠を右に見て、稜線を左に進み三角点。さほど広くは無い。祠周囲のほうが広い。穂高はガスで見えない。富山方向は見下ろせるが、遠くはモヤッている。誰も居なくて、セルフタイマーで登頂写真を撮る。
山 荘 前	6:30~6:45	また先ほどの女性が外に出ていた。穂高が見えそうで見えない。槍は雲の中。自炊グループの他は殆どが発発して行き、山荘は静かになった。

水場の分岐	6:55~7:10	幕営者1人が歩き出す。下山後は車の運転がある。従って、石に腰を下ろし、残りのウイスキーを水割で平らげる。水場を下りてみると、なんと入れ歯の忘れ物。この後、笠新道の分岐までは一本道だ。気が付いて取り戻しに来るのであればスライドするわけだが、その間1人を追い越したのみである。
笠新道分岐	8:00	杓子平迄40分、新穂高温泉迄約4時間と書いてある。抜戸山に続く稜線を乗越し、ゴロゴロ石の急降下に入る。この下りは膝に負担が掛かり長く感じる。
杓子平標柱	8:50	5分前に単独上山男とスライド、4時頃歩き出しと言う。槍ヶ岳から縦走して来た単独女に追いつき追い越す。長期縦走で、もう何日目かも忘れたと言っていた。暫く同時歩行をするが、すぐに先行する。
上山者が来る	9:15	ポツポツとやって来る。単独もしくは2人旅の者である。団体は居ない。群馬男に追いつく。彼は室堂から入山し、新穂高温泉下山とのことである。70才過ぎと思われ、経験豊富で山スキーもやると言っていた。
休む	9:30~9:35	丁度良い休み場がない。登路の大きな石にまたがり休む。新穂高ロープウェイが登り降りしているのが見えた。穂高の稜線が一部見え隠れしている。
鉄板ベンチ	10:10~10:15	5分程前から樹林が現れる。女性2人隊と単独女を追い越す。にわか造りの鉄板ベンチに腰を下ろし最後の休憩とする。再び群馬男が来る。少し食べて出発。
林道に降りる	11:00~11:05	左俣谷の沢音が聞こえ始めても長く感じた。丁度3時間の笠新道を終える。男女数人隊が林道下りの出発であった。
登山指導センター	11:55	林道ではこれから登る者もやって来る。途中で前行隊を追い越す。道脇のヤマオダマキを撮る。林道ゲートで一服して、間もなく歩行終了。
駐車地点	12:15	バスターミナルから10分歩きで車に戻る。無事到着を自宅に電話する。
入浴と食事	1:25発	少し進んだ所の日帰り入浴施設に入る。併設のレストランで飛騨ラーメン定食を食べてから帰路につく。平湯付近を通過すると雨が当たって来た。
帰宅	6:10	高速道休日1,000円割引が今日と明日に拡大されて、松本から長岡までそれに便乗する。マルイで本物壺ビール2本を買って1人祝杯。

鷲羽山は北アルプスの最深部に位置する。また、笠ヶ岳は書物等の写真からその端正な山容は、山を始めた頃からいづれも憧れを持っていた。従って、数年前には2万5千地形図「三俣蓮華岳」と「笠ヶ岳」を買っていた。

毎日が日曜日の身分になって初めての夏山にこの2座を目指すことにした。当初テント泊も考えたが、標高2,500m超での幕営は、天候が荒れた場合を思うと自信が持てなかった。一方、第2日目の合計コースタイムが10時間を越えている。体調や天候状況によっては、2分割して双六小屋泊を追加することも考慮に入れていた。従って、食料は4日分を担いだ。なお且つ、準備に時間が有り過ぎて、ついつい食料を余計に持ってしまい、初日の荷重負荷が多すぎた。結果として持参した缶詰は一つも手を付けなかった。

今年の夏は、例年になく低温で、なかなかお天気が続かない。この三日間も第2日目の予報が芳しくなかった。所が、好転し、全く雨に当たることは無かった。雲が沸くのは当然と思われるが、好展望の北アルプスを堪能した。

